

青森県立保健大学大学院 CNSコース(がん看護専門看護師)紹介

がん看護専門看護師コース (38単位)

取得可能な学位: 修士(看護学)

CNSコースの概要

高度化・専門分化が進むがん医療の現場において、困難で複雑な健康問題を抱えた人々を病気と生活の両側面から捉え、治療(キュア)とケアを融合させた高度な看護実践能力を有する専門看護師の養成が急務となっています。

本コースは、住み慣れた地域でがん患者と家族が望む生活の実現へ向けて、総合的な判断と組織的な問題解決力を培い、高度の看護実践を行うための看護を探求するコースです。特に、がん看護分野の中でも「がん薬物療法看護」「緩和ケア」をサブスペシャリストとする専門看護師を養成しています。

教育内容の紹介

本コースでは、実習単位が10単位あり、5種類の実習を行います。複雑な問題を持つ患者や家族に対する高度で専門性の高い看護の提供、チーム医療の一員としての総合的な判断と組織的な問題解決の実践、さらに教育や組織の課題への取り組みの実際を学び、がん看護専門看護師としての役割開発を探求します。また、課題論文では、専門看護師として現場での看護を改善し、根拠に基づいてケアを実践するために実践上の課題を解決するための研究能力を養います。

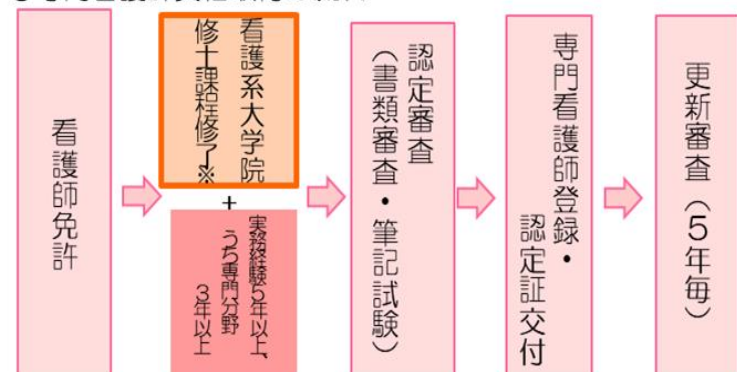


地域に根差したがん看護専門看護師の育成を目指す

がんになっても住み慣れた地域で最期まで過ごせるように、がん患者・家族に対して、「いつでも、どこでも、だれにでも」質の高い地域包括ケアシステムの一部としてがん看護を提供していくために、患者・家族、様々な職種、施設間をつなぐ調整力を備えた地域に根差したがん看護専門看護師の育成を目指しています。

現在、昨年度本コースを修了した1期生3名が、専門看護師の資格を取得し県内外で活躍しています。

○専門看護師資格取得の流れ



※ 日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得すること(26単位または38単位)

修了生からの
メッセージは裏面で
紹介しています

■ 募集人員・入試に関する詳細については、「学生募集要項」(5月下旬頃にホームページ等で配付開始)をご覧ください。

ホームページURL:
<https://www.auhw.ac.jp/>

青森県立保健大学大学院 CNS（がん看護専門看護師）コース 修了生からのメッセージ



越後 優子 さん 八戸市立市民病院 がん看護専門看護師 2018年度修了生

私は、自分と近い年代のがん患者さんやご家族に対して、何をすることが苦痛の緩和につながるのかと悩みながら看護ケアをしていました。丁度その時、青森県立保健大学大学院にがん看護CNSコースができることを知り、当時の看護局長の勧めと家族の協力もあり、大学院に入学し通いながら学ぶことができました。

院生生活は、新しいがん医療と看護の知識を身につけ、看護理論を基盤としたエビデンスに基づいた質の高い看護ケアについて学ぶことができました。当院にはがん看護CNSはいなかったため、実習指導者のCNSから学ぶことが多くありました。

2019年にがん看護CNSとなり、現在は緩和ケアチームに所属しています。がん患者さんの苦痛が緩和しQOLが向上するためのケアについて他のスタッフとともに考えています。

●CNSを目指す人へのメッセージ

大学院で学ぶことは簡単なことではありませんが、大学院の先生方や院生の同期と看護を語り合い、自分の看護観や死生観を見つめなおすことができ、2年間の学びが大きな糧になっています。青森県はがん罹患率が高く、がん看護の力がさらに必要となります。一緒にやりがいのあるがん看護を目指しましょう。

小野 晃子 さん 弘前大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 2018年度修了生

学習期間や経済面のことを理由に、長くキャリアアップの一步を踏み出せずにいましたが、地元である青森県にがん看護を学ぶ場ができたこと、職場の上司が看護師として成長する機会を後押ししてくれたことで、進学を決意しました。

私は、指導教員、実習担当の専門看護師、修士の同期と語るなかで、自分の価値観を自覚し、看護実践の困難さに影響していたことに気付きました。看護の専門知識と技術の習得はもちろんですが、人間の多様性をみとめ、ケアに関わるすべての方と信頼関係を築くことを大事にできるようになりました。

大学院を修了後は、勤務していた病院へ戻り、一看護スタッフとして働きながら、専門看護師としての役割開発に努めています。本年度からは、現在注目されているがんゲノム医療のチームメンバーに加わり、新しいがん医療の体制作りにも関わっています。

●CNSを目指す人へのメッセージ

2年間、学業に専念するという決断は容易ではありませんが、周囲の応援する方々からのサポートが励みとなって、必ず困難は乗り越えられます。修士課程での学びは、今後の看護師人生を豊かにしてくれると思っています。

土川 弥芳子 さん IMSグループ春日部中央総合病院 がん看護専門看護師 2018年度修了生

外科病棟で緩和ケアを中心としたチームに配属していた際、あるがん患者さんをきっかけに「もっとがん看護について学んでみたい」と思うようになりました。丁度、故郷の青森県でがん看護CNSの養成を行うことを知り、迷わず受験しました。

院生生活では、自分の看護観や人間性と向き合うことでつらい時もありますが、熱心に指導してくださる先生方や一緒に乗り越える仲間が私を支えてくれました。がん看護についての専門的知識や技術だけでなく、看護の基盤となる思考についても考えさせられました。県外での実習もあり、最新のがん医療・看護に触れることができます。これまでの自分の狭い考えが、大きく広がったと感じています。

現在は、緩和ケア内科のある病棟に配属し、終末期にあるがん患者さんや家族を中心に看護実践を行っています。また、他科から症状コントロール等の依頼があった時には、医師・認定看護師と協働し、がん患者さんの意向に沿えるよう介入をしています。

●CNSを目指す人へのメッセージ

日々の看護実践で、悩みや疑問を持っている方にはぜひCNSコースで学びを深めてほしいと思います。小さなきっかけでも、大きな変化につながると思います。